



JR 東労組水戸

JR 東労組 水戸地方本部
発行責任者 村田 祐一
編集 集情宣部担当

2024.12.23

No.20

「2025年3月ダイヤ改正について」提案を受ける!

6. 主な労使議論

その②

組合:ダイヤ改正の目的を明らかにすること。

会社:お客さまのご利用状況に合わせた輸送力の見直しやワンマン運転拡大など、鉄道オペレーションにかかるコストの見直し、サステナブルな鉄道事業を実現することや収益力の向上を目指す。水郡線や常磐線では編成両数の見直しや行先変更による運用変更。常陸多賀駅・東館駅・下小川駅のスリム化工事を行う。

組合:当直業務にフレックスタイム制を導入する箇所を明らかにすること。

会社:勝田統括センターといわき統括センターで当直業務にコアタイムを設けたフレックスタイム制を導入する。乗務員の出勤時間や点呼時間等には必ず従事できる体制は整える考えである。

組合:水戸統括センター車掌における作業内容の変更点を明らかにすること。

会社:1つは水戸駅構内で水郡線の誘導・併結作業を行う行路が出来る。2つ目は水戸駅改札に従事する行路が出来る。改札に従事する行路は運輸職場で出勤点呼とアルコール検査を行い、改札業務を行う。明けは水郡線水戸駅～常陸太田駅を1往復乗務し、再び改札に従事する。最後に運輸職場で退勤点呼を行う。水戸駅改札は現行の作業ダイヤでは2徹だが、水戸統括センター車掌が水戸駅改札を担うため、水戸統括センターの出面数、一般の泊まりが1減少する。

組合:水戸統括センター車掌の行路について、行路内に改札業務と乗務業務を融合することに、作業の切り替えに対する不安を感じる。会社の認識を示すこと。

会社:水戸統括センター発足以降、車掌は駅の作業ダイヤに従事し、業務の融合を図ってきた。水戸駅改札業務の見習いは車掌に従事する社員の全員が終了している。

組合:「特急ひたち号」のいわき駅止まりの運用について、現行の1時間折り返しでは列車遅延が回復しない。乗務員や駅員より改善の意見がある。会社の認識を示すこと。

会社:車両運用について、利便性が向上した意見もあるが、現状について調査する。

組合:箇所体制の増減について明らかにすること。

会社:ワンマン運転拡大や関係箇所との持ち替え等により、増減が発生している。また、いわき統括センター車掌の特急列車乗務範囲を水戸駅一原ノ町駅間から水戸駅一仙台駅間に拡大する。

組合:各箇所の運転士と車掌、現行と改正の行路数を示すこと。

	勤務	現行		改正	
		日勤	泊まり	日勤	泊まり
土浦統括センター	運転士	6	18	5	18
	車掌	2	14	2	14
水戸統括センター	運転士	3	10	3	10
	車掌	2	3	1	3
勝田統括センター	運転士	6	21	6	21
	車掌	2	17	2	15
いわき統括センター	運転士	5	11	5	11
	車掌	2	4	3	4
原ノ町統括センター	運転士	4	7	4	7
	車掌	2	3	1	3
水郡線統括センター	運転士	5	5	5	5
	車掌	5	1	4	1



皆さんの意見を集約します!
水戸地本までお問い合わせ下さい!

JR東労組水戸地本は組合員・社員の要求をもとに、団体交渉を行います!